

エゾノキヌヤナギ

Salix pet-susu

ヤナギ科



エゾノキヌヤナギ。風を受けると葉の裏側が白く輝いて見える

名前の由来

「蝦夷（北海道）」のキヌヤナギ。「キヌ（絹）」は葉の裏面に白い絹毛を密生するため付けられたという。「ヤナギ」は①古く中国で矢をつくったことから、ヤノキの転。②成長しやすいため、イヤナガ（彌長）の略。③梁をつくったことから、ヤナ木。④柔荑木（やわなぎ）の意。などといわれている。漢字名：蝦夷の絹柳

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（葦原・樹林）
ワシ・タカ
鳥類

形態的特徴

水辺に多く生える落葉樹、樹高6～13m、25mになるものも。葉は披針形で長さ8～20cm、全縁、葉の縁が裏に巻き込む。裏面絹毛を密生し銀白色、葉柄は有毛で長さ8～15mm、互生。その年に出た枝も有毛である。雌雄異株。花は雄花序の葯は黄色、雌花序は淡黄色、長さ2～3cm、4～5月葉より先に開花。果実は果序の長さ約10cm、5～6月に成熟。

類似種との見分け方：エゾノキヌヤナギの葉の裏には絹毛が密生しており、銀白色を呈している。葉の縁が裏面に巻き込むのはオノエヤナギと共通する。オノエヤナギとの雑種もできやすいという。



エゾノキヌヤナギの雄花

エゾノキヌヤナギの雌花

エゾノキヌヤナギの雌花で交尾するゾウムシの仲間

エゾノキヌヤナギの実が開いて出た綿毛と種



エゾノキヌヤナギの葉。裏には絹毛が密生して輝く



エゾノキヌヤナギの樹形



エゾノキヌヤナギの樹皮



エゾノキヌヤナギの冬芽



エゾノキヌヤナギの枝先と葉

生活サイクル

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 開花期 | ■ | | | | | | | | | | | |
| 結実期 | | ■ | | | | | | | | | | |

生育環境・分布

各地の水流沿い。

分布：国外分布は、樺太。国内分布は、北海道、本州中部

以北。北海道内分布は、各地の水流沿い。

十勝地方生育状況は、各地の水流沿いに分布。

繁殖生態・寿命

4～5月葉より先に開花。蜜腺を持つ虫媒花。果実は果序の長さ約10cm、5～6月に成熟。ヤナギ類の種子には無数の長毛がつき、風散布される。その距離は数100mから数

10kmにまで達するという。寿命は〈高木類のヤナギで〉30～50年？

他生物との関わり

コムラサキ（チョウ）やヒオドシチョウの幼虫の食樹となる。

《ヤナギ一般》花の少ない早春に開花するので、この時期の昆虫にとって貴重な吸蜜源となる。また、ヤナギ類は新条（その年に出た枝）が伸びるにつれ新しい大きめの葉を先に付けるが、早くから出た葉は順番に落ちていく。これによって長期に渡り水生昆虫に餌を供給でき、魚を養うことができる。



コムラサキ。幼虫時、エゾノキヌヤナギなどのヤナギ類を食樹とする

植栽関係

枝挿し増殖によって簡単に増殖でき、挿し木（埋枝）も極めて有効である。一般的にヤナギの挿し木には、直径1～3cm（枝齢2～5年生）でまっすぐなものが良く、長さ30cmが基準となる。無理矢理打ち込まず、案内棒などで穴を

開けて、斜めに埋めることが望ましい。上下間違わないようにすることも大切である。埋枝時期は落葉後の晩秋、発葉前の早春までが適当である。なおクロボク土といわれる黒土を客土してはならないという

興味深い話

- 花材、細工物に用いられる。
- 葉の裏の絹毛はよく光り、強めの風で多くの葉が裏返ると、木全体が白っぽく輝くように見える。
- 学名のpet-susu（ペッスス）はアイヌ語（『川－柳』？）である。
- オノエヤナギとともに生育することが多く、葉もよく似ていて葉裏の毛のあるなしで区別するが、雑種もできやすいようだという。
- 〈ヤナギ一般について〉多くのヤナギ類は挿し木に向いていて、「さし木にも風はそよぎて柳かな」（里童）という俳句があるほどである。『万葉集名物考』（著者、刊行年代不明『日本文学古註釈大成』に収録）には「柳は枝を折て地上にさしおけば生ひやすく根植はかへりて育たぬもの也」とあって、挿し木の場合は根付きやすいが、移植は育ちにくいことを示している。しかし一般的にヤナギ類は、

移植には強いと言われ、相当大きな木でも発葉前の適期に移動し、枝をかなり剪定するとより良く活着するという。

■ヤナギは全体として早熟性であり、発芽後10年ほどで種子散布をおこなう。また風散布によって種子が遠距離まで分散するため、その生育域を短期間に広げる可能性を持ち、「速足の旅人（クイックトラベラー）」と呼ばれるという。



エゾノキヌヤナギ。冬から春に近づくとき、花芽が白くふくらみ出す。

配慮事項

特になし。

参考文献

「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990
 「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992
 「樹木大図鑑」高橋秀男監修 北隆館 1991
 「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996
 「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社

1978
 「ヤナギ類 その見分け方と使い方」斎藤新一郎（社）北海道治山協会 2001
 「森林で遊ぼうシリーズ1 おもしろい木の話」北海道立林業試験場 監修 北海道林業普及協会 1996
 「地名アイヌ語小辞典」知里真志保 北海道企画センター
 「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（草花）
（外来種）

（草花）
（外来種）

哺乳類

（鳥）
（水辺）類

（葦原）
（鳥）
（樹林）
（ワシ・タカ）類